

第9回広島大学マスタースウォーキング大会 「豊栄町乃美の里の歴史と芝桜鑑賞コース」 (2019年度 第24回広大マスタース例会報告)

広島大学マスタース会員 渡部和彦

日程：2019年4月29日（月・祝日）

場所：東広島市豊栄町乃美地域センター

プログラム（1）：学習会 9：15－10：00

演題：「毛利元就の継室・乃美の大方と毛利氏」

講師：為平邦彦氏（乃美地域センター長）

プログラム（2）：ウォーキング大会

乃美地域センターを発・着で、約5Kmのコース。

概要：午前9時、乃美地域センターに全員集合、研修室で静かに講義を待つ。講師の為平さんは、豊栄町生まれ。駒澤大学文学部地理学科を卒業後、広島県内公立高校教諭として、「地理・世界史」を担当。三原高校、廿日市高校では教頭を務める。郷里、豊栄に戻り、その落ち込みぶりを知り、奮起。まずは、県内初「板鍋山（757m）登山マラソン」を思い立ち、2012年から毎年開催。2019年は県内外320名参加の大会に成長。板鍋山自転車レースも最近人気上昇中。また、板鍋山の隣に位置する、戦国の山城「茶臼山城（乃美氏の居城）」の整備を決意。地元、賀茂北高生・地域有志と雑木の伐採、歩道の整備等に尽力。

本題に入り、毛利元就の継室（正室の後に嫁ぐ）、乃美の大方の逸話を解説。大方は乃美の出身。毛利元就との間に、名を残す四男元清、七男元政、九男秀包をもうける（別の3本の矢）。その後、明治維新まで続く毛利家は、幕末の歴史に重要な役割を果たす。講義では、カラー印刷の詳細な資料が配られ、講義内容の理解に役立つ。戦国時代、合戦にまつわる毛利家ゆかりの武将たちのエピソードを明快に語っていただき、実に楽しい受講時間でした。乃美地域センター内には、為平さんを中心に開設された「乃美大方伝承館」があり、一見の価値あり（毛利家歴代当主の肖像画、系図やその解説資料と共に、茶臼山城絵図等を展示）。

ウォーキング大会は、約5キロのコースを参加者全員（27名）で楽しんだ。雨の心配があったが、大会中は降らずに幸運でした。コース途中では、県重要文化財紙本墨書大般若経（600巻）を所蔵する、乃美本宮八幡神社を参拝。トムミルクファームでは、トイレ休憩（記念写真撮影）。各自好みのアイスクリームなどに舌鼓。霧に浮かぶ板鍋山・茶臼山を遠望し、田の畔を覆う芝桜の見事な景色を楽しんだ。予定の12時過ぎ、地域センターに帰還。センターのご好意で昼の間でテーブルを囲み、参加者全員で昼食と歓談。



ウォーキングコース傍の棕梨川では、生息するオオサンショウウオの姿を今回確認できなかったが、乃美地域センターに、今年10月には飼育センターがオープンとのこと。広大の清水則雄准教授らが長年関わり指導されている。楽しい場所が増えそうです。板鍋山、乃美の大方、オオサンショウウオが、新たな「三本の矢」として地域の魅力が高まり、乃美地区はじめ、豊栄が一層元気になることを願う次第です。

健康体操「いきいき体操ひがしひろしま」を全員で行い、無事大会を終え解散した。参加者27名（HM会員：10名、ウォーキング友の会：17名）。

ウォーキング友の会の皆様のご協力への感謝と共に、参加者全員に感謝申し上げます。